

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回吉川市総合振興計画審議会
開 催 日 時	令和3年5月18日(火) 午前・ 午後 6時00分から 午前・ 午後 8時05分まで
開 催 場 所	吉川市役所202・203会議室
出席委員(者)氏名	加藤克明委員、齋藤詔治委員、雪田きよみ委員、 林美希委員、小林照男委員、岡田早苗委員、竹内武委員、 戸張加代子委員、本間寛隆委員、廣瀬正子委員、菊地純松委員、 石阪督規委員、宮地さつき委員、高崎康男委員、 多々良啓一委員、高橋健太郎委員、中島新太郎委員、 石井亮英委員、齋藤和雄委員、木原十三男委員、 星座正俊委員、秋元智子委員、佐藤梨帆委員、青柳雄大委員
欠席委員(者)氏名	小野潔委員
担当課職員職氏名	政策室長 浅水明彦 政策室副室長兼主幹 岡崎久詩 政策室調整幹 野尻宗一 政策室企画担当副主幹 油川誠 政策室企画担当副主幹 相川美佐子 政策室企画担当主任 林希 政策室企画担当主任 平塚雅史 政策室企画担当主事 野口陽子 都市整備部副部長兼都市計画課長 中村喜光 都市整備部都市計画課都市計画担当副主幹 宮田匡寿
会議次第と会議の公開又は非公開の別	[次第] 1 開 会 2 あいさつ 3 議事 (1) 将来都市像及びまちづくりの基本理念(案)について (2) 将来人口(案)について (3) 将来都市構想(案)について (4) まちづくりの目標(案)について 4 その他 5 閉 会 [公開・非公開] 公開
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍 聴 者 の 数	1人

会議資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・第6次吉川市総合振興計画基本構想(原案)に係るご意見について 資料1 ・将来都市像及びまちづくりの基本理念(案)について 資料2 ・将来人口(案)について 資料3 ・第6次総合振興計画施策体系イメージ 資料4-1 ・まちづくりの目標(案)について(一覧) 資料4-2 ・まちづくりの目標(案)について(各部門) 資料4-3 ・近隣市町の総合振興計画(将来都市構想等) 参考資料1 ・地区別人口推計 参考資料2
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	岡田早苗委員、木原十三男委員
その他の必要事項	なし
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	<p>1 開会</p> <p>それでは、第2回吉川市総合振興計画審議会を開催させていただきます。</p>
石阪会長	<p>2 会長あいさつ</p> <p>前回に引き続き第6次総合振興計画の基本構想についてご意見をいただきたい。</p> <p>前回の審議会では沢山のご意見をいただいたが、議論が出尽くしていない部分があったため、事務局と相談し書面にてご意見ご質問をいただく形をとらせていただいた。本日はその書面の内容も含めて、事務局より説明をしていただく。</p> <p>今回は将来都市像、まちづくりの基本理念、将来人口、将来都市構想を皆様からご意見をいただいたが、本日の資料の中には新たに、まちづくりの目標が示されている。</p> <p>本日皆様からご意見いただいたものを取りまとめ、パブリックコメントを行いそこでのご意見を踏まえ、皆様から最終的なご意見をいただき、答申とする予定である。</p>
事務局	<p>3 議事</p> <p>議事録の署名委員として岡田早苗委員、木原十三男委員を選任。</p> <p>会議の公開については、第1回審議会にて決定したとおり、公開とする。</p> <p>(1) 将来都市像及びまちづくりの基本理念(案)について 資料2に基づき説明。</p>

石阪会長	<p>《質疑・意見》 意見なし。</p> <p>事務局案の通り進める。</p>
事務局	<p>(2) 将来人口(案)について 資料3に基づき説明。</p>
小林委員	<p>《質疑・意見》 最新の数値資料では、合計特殊出生率が1.39であろうと2.07であろうと人口は減少してしまう。課題は、合計特殊出生率が上がったとしても人口が減少してしまうことである。根本原因は子供を産む世代の人口減少で、分母が減少してしまうことである。</p> <p>将来人口77,000人は目標値として正しいとは思いますが、今後目標を達成していくために、単純に子育てしやすいまちづくりとか、保育所を増やすという施策では人口増加、維持ができない。生まれてくる子供よりも、子供を産む世代の人口がどれだけ増加するかが鍵になると思う。</p> <p>但し、目標値の設定であるため、今後の下位計画の中で具体的な計画を落とし込めればよいと思う。最新の数字にしても大きく変化がでない悲観的な数字と考えざるを得ないが、77,000人の設定でよろしいかと思う。</p>
齋藤委員	<p>吉川市は、近隣5市町のなかで2番目に大きい土地面積を有し環境的にも恵まれている。77,000人ではなく90,000人を目指すべきである。</p> <p>土地利用計画の中にも今現在農振農用地であるが、中川から大場川の間に多面的な場所があり、ここが今後の吉川市の大きな飛躍のためのスペースだと思う。</p> <p>目標実現に向け、全てを実施計画に委ねるということではなく、本来は10年間でできる実施計画を定め、それを実行するためにはどうしたら良いのかを考えるべきである。</p> <p>まあいいじゃないかといった考え方であれば、市は減びてしまう。</p> <p>人口を増やさなければ、旭・三輪野江地区のような伝統ある集落の維持が難しくなることが予想されるため、明るく元気で活力のある基本構想であるべきだと考える。</p> <p>目標人口が77,000人というのは納得できない。</p>
石阪会長	<p>吉川だけが目標90,000人で、周辺の市町村が維持となると整合がとれないといった問題も出てくる。子供の数自体が減っている中で、77,000人でも個人的には相当頑張っている方だと思う。</p> <p>仮に目標を90,000人、100,000人としてしまうと、吉川市は宅地開発をメインとした計画とせざるを得なくなり、自然として残っていた部分や農地も、宅地開発に重心を置いた計画となる可能性もある。外から人を呼び込まなければ人口は増えない。</p>

	<p>77,000人は減っているわけではなく、今のまちを大きく変えることなく成長させていくという視点での人口だと思う。人口を増やす施策は下位計画やアクションプランでどうやって人口を増やすかに繋がっていく。</p> <p>出生率が2.07であれば人口学的には減らないはずだが、長期的に見れば減る。これをどう人口維持に繋げていくかということも、基本計画と実施計画の中で考えていきたい。目標としては、100,000人でも200,000人でもよいが、そうすると、そのための論拠、エビデンスは、ということになってくる。基本計画、実施計画がかなり窮屈なものになるという可能性があるため、目標人口は77,000人とし、人口施策において、それを上回ればむしろ喜ばしいという形で如何か。</p>
秋元委員	<p>77,000人に反対ではないが、将来人口の年齢構成や世帯数のようなものが示されなければ、施策の検討ができないのではないか。</p>
事務局	<p>次回資料としてご用意させていただく。</p>
石阪会長	<p>77,000人の内訳、どこの部分が増えるのか、社会増か自然増を含めて、事務局は次回資料を提示してほしい。</p>
竹内委員	<p>商工会でも人口増を狙っている。そうでなければ吉川の商工も減少する状況である。人口は財産である。</p> <p>首都圏で人口が100,000人を切っているのは、吉川だけではないか。今の状況で自然増、年間1,000人の増では発展性がない。将来はどのような方向に行くのかわからないが、目標人口77,000人は少ない。</p>
石阪会長	<p>吉川だったら大丈夫だろうというご意見かと思うが、他の自治体でもあまり冒険しているところはない。また、今から20,000人近く増やすのは厳しいのではというご意見もある。</p>
雪田委員	<p>77,000人は現実的な数字だと思う。全国的に子供の数が増えない状況の中で、人口を増やしていくことは本当に難しいことだと感じている。</p> <p>その中で77,000人は妥当だと感じており、増やすために何をするのか。吉川は転入人口が多いので、ここで生まれた子供たちが吉川に住み着いて、子供を新たに生み育てていけるまちをどう作っていくかということのを次の所で深められたらと考える。</p>
石阪会長	<p>例えば仮に将来人口を100,000人とし、後に下方修正するのは行政として一番やっではないパターンであり、むしろ上方修正することの方が、数値目標を立てたときに達成度が素晴らしいという評価になる。あまり高くしてしまうとそこに向けて窮屈な行政運営をしなくてはならなくなるというデメリットもある。</p> <p>ご理解いただけるのであれば、当面77,000人とし、途中で上</p>

	<p>方修正の方が現実的かと思う。 特に異議がないようであれば、将来人口77,000人とすることでまとめさせていただきたい。</p>
事務局	<p>(3) 将来都市構想(案)について 参考資料1、前回配布資料3に基づき説明。</p>
竹内委員	<p>《質疑・意見》 吉川はこの地区で国道が一本もない。そこが欠点だと思う。道路網が貧弱だと周辺が発展しない。スマートインター周辺のまちづくりについてはどのように考えているのか。</p>
事務局	<p>道路では、国道として東埼玉道路、常磐自動車道という高速道路が通っている。インター周辺のまちづくりについては、交通利便性の向上という点からも、それぞれのインター周辺に「産業まちづくり地域」を配置し、土地利用を図る構想としている。</p>
齋藤委員	<p>334号線(主要地方道葛飾吉川松伏線)ができたが渋滞しており、東埼玉道路も少しだけ吉川の川べりをかすめる程度である。越谷総合公園川藤線についても、整備にどれ位の期間を要するか分からない。 吉川橋は新たに整備されたが、高校生の自転車等でいっぱいである。また三郷から中川沿いを通るトラックも334号線は通行しない。そうした様々な課題についても第6次に盛り込んでもらいたい。大場川の端、中川と江戸川間に構想道路があるがこれも進んでいない。とにかく通行止めの解決でもよいので計画に反映してもらいたい。</p>
石阪会長	<p>この図面については、どのエリアをどういう形で活用していくのかといった色分けをするものであり、道路の問題について細かく表記することは難しい。 道路整備計画という具体的なものについては、この次のプロセスとなり、エリアとして生かすということを中心に見ていくということになると思う。事務局からも説明を願います。</p>
事務局	<p>この図における都市軸は、骨格となるような道路をどのように配置していくかというものである。 道路の整備は、土地を確保し、大きなお金と時間をかけながら市民の皆様にも少しずつご理解いただき進めていかなくてはならない。今回の構想としては、市全体に縦断的・横断的な軸を形成し、しっかりとした道路網を形成するということと、このような構想とさせていただいている。</p>
石阪会長	<p>この計画は第5次にはなかったのか。</p>
事務局	<p>ご質問にあった越谷総合公園川藤線については、市を東西に骨格を通すよう、新たな軸として設定している。</p>

齋藤委員	第5次そっくりであり、ただやっていないだけである。
中島委員	吉川橋から平沼地域は昔から吉川の中心街で、吉川神社があり八坂祭りも行われている。町並も古いものが残っていて、料亭等もあり、江戸へ舟を出した歴史的な場所でもある。そのエリアを「歴史文化拠点」とし、何かの形で残せるような計画としてもらえるとうれしい。
石阪会長	他の自治体では、歴史や文化に関わるエリアをそういうネーミングで配す場合もある。吉川として残す必要があるということであれば、そういうこともあり得るのかなと思うが如何か。
事務局	そのエリアについては、古くから吉川市の歴史の中で大変重要な地区であると認識している。ただし、今回の拠点については、人々が広く集まったり、都市施設を集約し土地利用を図っていくような考え方であるため、歴史的な部分については、今後都市計画マスタープランにおいて検討させていただきたい。
雪田委員	前回の審議会で中島委員から旭・三輪野江地区の人口維持をどのように図っていくのかという意見があったかと思う。農業産業振興拠点だという考え方だけで、今の地域コミュニティの維持等、住民の皆さんの要望や願いに応えるものになるのか疑問である。
石阪会長	例えば農地や山林、治水というのはかなり手続きが大変である。おそらく市の計画ではそこまで大きな見直し、市民のコンセンサスが取れていないということから、第5次をそのまま維持する形が多いのだと思う。
事務局	人口維持やコミュニティ維持については、土地利用だけでなく、前回中島委員が発言されていたように、教育や生活道路を含めた整備等が必要である。これらを基本計画などで検討し、総合的な施策の中で旭・三輪野江地区のコミュニティ維持などを考えていきたい。
石阪会長	<p>おそらく色が緑だから開発ができませんということではなく、ある程度拠点を集約したり、今後計画的に進めていく上で、目安になるようなイメージである。</p> <p>今後の計画や都市マスタープランなどで具合的にどのエリアがどう活用していくかということによろしいのではないか。</p>
高崎委員	<p>かなり農地や集落地域がある印象だが、実際には3分の1程度だと思う。また中央のインターから新川橋のところは、橋から下側部分は農地ではなく住宅街になると図面から読み取れる。</p> <p>農地の施策は難しいところがあるので、皆さんと一緒に考えていきたい。なぜ農地に頼るのが必要なのか。また後継者がいない状況の中で、しっかりとこの審議会で検討していきたい。</p>

	<p>実際に農家の方からも今後について様々な不安の声を聞いている。農家にとって田んぼや畑が重荷となっている部分もあり、その辺を理解してもらいたい。</p>
事務局	<p>ご意見の地域については、実際に住宅等はあるが、既存住宅も含めてこのような農地及び集落地域としている。</p>
高崎委員	<p>市街化区域、市街化調整区域といった棲み分けか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。</p>
石阪会長	<p>ゾーニングでこう変えた方がよいのではという意見があればお願いしたい。</p>
秋元委員	<p>吉川市として市街化調整区域と市街化区域はどういう考えなのか。それらの区域区分については、市が決めることができるのか。</p> <p>また、将来人口を77,000人とした際に、どのような計画を考えていくのかわからない。</p>
事務局	<p>市街化区域と市街化調整区域の区分については県の決定であり、市町村に権限はない。しかしながら、吉川市として市街化区域に編入していきたいという地域については、県と調整をしながら進めている。最近では吉川美南駅東口の約60haについて、新駅ができたこともあり、基本構想に位置付けた中で市街化区域に編入したところである。</p> <p>今後も市街化区域に編入することについては、県との調整が必要であり、都市と農林の調整はバランスをしっかりと取りながら進めていかなければならない。農林調整は時間を要するもので吉川美南駅東口についても約十数年時間がかかっている。</p>
石阪会長	<p>土地利用について色々のご意見があったが、吉川市としてはある程度バランスも大事であり、適正な配置も必要かと考える。</p>
石井副会長	<p>他市と比べ調整区域が多いが、見方を変えるとコンパクトになっていて計画がしやすい。</p> <p>人口減少という点では、調整区域は家を建てられるところが決まっているため、今建っているところにしか建てられないという状況である。調整区域に新たに家を建てるということになると、宅地開発、都市計画の問題になってくると思う。</p>
小林委員	<p>一つの意見として申し上げるので返答は不要である。</p> <p>地区ごとの人口減少について、今日お示しいただいた資料では、旭地区と三輪野江地区は大幅に減少しないものの、人口構造の変化が起きるというデータになっている。</p> <p>一方で吉川美南駅東口周辺地区の開発に成功しない限り、ほぼほぼ人口77,000人には到達しないといったことも示されてしまっている。</p>

	<p>市街化区域へ編入し人口を増やす、宅地開発を進め人口を増やすといったときに、その時点で人口が増えるか増えないかは、周辺市街地との人口獲得競争に吉川が勝つかどうかにかかってくる。そう考えると隣の三郷市や越谷市と比べた際に、そこよりも魅力のある町、もしくは地価が安くて安価に住宅が手に入る等といった条件が揃わない限り、いくら市街化したところで人が入ってこない。</p> <p>市街化するという事は、それだけインフラ整備にお金がかかり、むやみに市街化してしまうと市の財政を圧迫することになる。</p> <p>吉川市だけではなく全国的に同じ課題に直面しており、人口減少や人口維持の考え方として定住人口を見ているが、新しい市街化計画の考え方として交流人口をどう増やすかという考え方がある。交流人口を増やし、まちに人が来るから住んでいなくとも経済を活性化させるという施策が生まれ始めている。</p> <p>田んぼや畑を潰し、宅地開発を進めたとしても人口が増える保証はない。交流人口を増やし、別の方法でそこを活用するという考えた方からみると、農業を6次産業化する施策をこの下位計画の中に入れ込むことはどうだろうか。</p> <p>市街化することが良いということではなく、農地を使って人を入れるというような考え方もあるという意見である。</p>
林委員	<p>将来都市構造図のゾーニングについて結論から言うとこれでよいと思う。</p> <p>もし人口増を狙っていくのであれば、宅地を増やすような計画をしっかりと描いていくことが必要だと説明があったが、コンパクトであるといった吉川の特徴や現在のすばらしい風景を活かしつつ、若手農家の育成、農業の支援をこの先の施策でしっかり位置づけ、現状を維持していくといったゾーニングも必要かと思う。</p>
中島委員	<p>三輪野江の高速道路周辺が工業農業振興地域になっているが、そこで二十歳の女性が「いちご園」を継いで営んでいる。果樹の農園地帯とし、インターから人を呼び込み、若い人が跡継ぎできるような農業を進めていきたいとのこと。そういった若い人たちがやれるような農業の仕組みを作れば、旭地区や三輪野江地区にも人が入ってくるのではないかと。</p>
石坂会長	<p>ゾーニングとしては、交流人口や関係人口といった視点も取り入れながら考えていると思う。</p> <p>ゾーニングについて、具体的な修正の意見はないようなので、事務局案でパブリックコメントにかけてみたい。</p> <p>事務局案の通りこの会議では進めていくこととする。</p>
事務局	<p>(4) まちづくりの目標(案)について 資料4-1に基づき説明。</p> <p>《質疑・意見》</p>

青柳委員	5番について、性別のところを「性自認」、「性的志向」と変えた方が良くと思う。国連の取り組みでSOGI (Sexual Orientation and Gender Identity) という言葉や考え方が出てきている。性別に囚われない性の多様性という意味合いであり、明確に書くことで他行政でも認められている行政パートナーシップの導入にも繋がるのではないか。
石阪会長	少し分かりにくい表現かもしれない。市民の皆さんにわかっていただくことが必要であるため、もし変更するのであれば注意書きや、場合によっては下位計画の中で性自認に関する表記を説明することも大事だと思う。
事務局	会長と相談し、対応を検討する。
石阪会長	個人的には、パブリックコメントにこのままかけて、市民の方の反応を見るというのも一つの考え方だと思う。
秋元委員	5番の3段落目について、タイトルで「パートナーシップで共に創るまち」を強調しているにもかかわらず「行政運営によるまちづくりをめざします」とするのは違和感がある。全ての施策の計画は行政運営に関わることなので、「協働によるまちづくりをめざします」という表現のほうが良いのではないか。
石阪会長	例えばまちづくりの前に、「協働のまちづくりをめざす」でも良いと思うので、せっきやくパートナーシップというタイトルを掲げられている割には、行政の内部で完結してしまうようなイメージという意見かと思うが如何か。
事務局	内部でも議論となった箇所であるが、1・2段落目については、協働に関する部分を明記し、3段落目はあえて行政運営だけとして、行政改革等を行っていくという考え方のもと、案を作成させていただいた。
石阪会長	3段落目については、庁内の改革を行政が責任を持ってやりますという決意表明だということである。
秋元委員	議論された結果であれば案のままでよいと思う。
林委員	「地域コミュニティ」に自治会は含まれると思うが、市としても住民自治の推進として自治会を支援している。地域のことを考えていただいているのは自治会であるため、ここで具体的に自治会という文言を追加したほうが良いと考える。
事務局	自治会は「地域コミュニティ」の代表と考えている。自治会だけではなく、色々な地域コミュニティが出てくるという見込みもある。自治会としたほうが分かりやすいという点については検討させていただきたい。
石阪会長	自治会は任意団体。一つの団体を表記してしまうと、他との

	<p>バランスといった問題も出てくる。広い意味で地域コミュニティは自治会組織も含まれ、計画の中では自治会活動の施策は入って来ると思う。自治会は地域コミュニティの中に含まれているとご理解いただきたい。</p>
齋藤委員	<p>水田の多面性、治水の対策を含め、自然の生態系をつくる中で太陽光発電や水素発電、水素エネルギーをつくるとか、まちづくりの目標において自然エネルギーを活用するような項目を入れて欲しい。活力ある豊かな市をつくることも大事な目標だと思う。</p>
石阪会長	<p>経済の部分に農業を入れて業としての農業を振興するというイメージと、環境の中に緑地や環境保全、環境を維持していくということ。3の部門と4の部門で、水田とか農地を多面的に利用するという視点は、ご意見の意図が反映されていると思う。</p>
事務局	<p>農業や環境については3の部門、4番の部門で重視して検討しており、環境面については第5次より積極的な姿勢を出している。</p>
青柳委員	<p>入管法などが話題となっている中、外国人労働について伺いたい。社会潮流におけるキーワードの部分で移民に関連するのが多文化共生にしかない。外国人労働はこれからの人口減少とともに重要だと思うが、この目標を考える上で外国人労働の視点はどこかに組み込まれているのか。</p>
事務局	<p>5番のパートナーシップ部門で、多様性を認め、支え合い、尊重されるまちづくりというところで読み込んでいる。 今後具体的に移民や外国人労働の施策については、基本計画などで検討する必要があると考えている。</p>
石阪会長	<p>文言としては外国人、国籍、多文化共生という表記がある。具体的なことについては下位計画のところでは吉川市の姿勢が見えてくると思う。</p>
本間委員	<p>1の部門の「環境づくり」「まちづくりをめざします」という表現について、「～づくり」が連続していることが気になる。他の類義語で読み替えることはできないか。</p>
事務局	<p>「環境づくり」という言葉は特に、施策を表す言葉として便利に使ってしまっているところはある。読みづらく感じるようであれば、他の言葉に置き換えて、施策を読み取れる表現とできるか検討させていただきたい。</p>
石阪会長	<p>環境の推進とすると固いイメージとなって、分かりづらさも出てくるかもしれない。分かりやすさという点で事務局も考えていると思うが、より分かりやすくということも含め、事務局と検討したい。</p>

宮地委員	<p>3番の1段落目、「自助・共助・公助」について、自治会の件を踏まえると「互助」を位置付ける必要があると思う。検討いただきたい。</p> <p>もう一点は資料4-1の表が、縦割り行政みたいに見えてしまうので、パートナーシップの部門が全てに関わっているのであれば、これだけでも横軸で示せると全てに関連していると思えると思うので検討いただきたい。</p>
石阪会長	<p>パートナーシップを横串とするのであれば、行政運営の段落も「市民の意見を柔軟に取り入れながら」とすとか「協働」の表現とするようにするなどもあるかと思う。</p>
事務局	<p>互助の表現については、他の施策での整合性も含め検討する。パートナーシップの施策体系の表現の仕方については、趣旨と近いと思うので検討したい。</p>
戸張委員	<p>三郷スマートインター付近については、移動利便性が高いことから、土地を集約し一農家として請け負い、市の大きな産業として考えていければと思う。</p>
石阪会長	<p>都市計画はもちろん、農商工が一つの枠に入っており、農商工連携の大事な視点である。</p>
廣瀬委員	<p>田と畑だけしかないような話をされていたように思う。</p> <p>視野を広げて平な土地を利用した新たな農業や果樹農園などといったやり方もあるのではないかと。島根か鳥取の過疎地で地鶏を飼育している事例もあった。定住人口ではなく、交流という点で、お金を落としてもらいやり方もあるのではないかとと思う。</p>
石阪会長	<p>農業の話が続いたが、まちづくりの目標に戻すと、商工と連携し、ある意味観光とも連携しながら進めていく。こういうコンセプトで出来上がっていると思うが如何か。</p>
岡田委員	<p>後継者問題もあり、田もほとんど委託となっている。委託を請け負う方も大変になっているため、市が何かしらの形で支援し、昔ながらの田園風景を守ってもらいたい。田んぼがあることで水害対策にもなっている。</p>
石阪会長	<p>農業の視点と防災の視点が、今回部門としては同じになっているが、そういう視点も重要ということではどうか。</p>
岡田委員	<p>昔はきれいな田園風景が広がっており、緑が豊かだったが、後継者不足で田畑が荒れてきてしまっている。施策でなんとか良い方法を考えられないかと思う。</p>
石阪会長	<p>市から提案いただいたまちづくりの目標については、5つの部門で進めていくということに異議はなかったと思うので、こ</p>

<p style="text-align: center;">事務局</p>	<p>れで進めていきたい。 表記については、パブリックコメントにかける前に、事務局と修正を加えて、パブリックコメントにかけるが、こちらについての表現は会長に一任とさせていただきたい まちづくりの目標の文言の構成、方向性や内容については了承いただいたと思うので、こちらの事務局案をもとにパブリックコメントにかけさせていただく。</p> <p>(3) 次回会議日程について 本日の意見を踏まえ事務局で修正し、6月にパブリックコメントを実施させていただく。そこでの意見を取りまとめ、次回審議会にてご報告させていただく。日程については、7月下旬から8月上旬頃を予定している。</p> <p>(4) その他</p> <p>8 閉 会</p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和3年5月31日</p> <p>署名委員 岡田 早苗 (自署) 署名委員 木原 十三男 (自署)</p>	